

みやぎ技能 KENTEI NEWS -第4号- 令和2年3月

宮城県は、技能向上に挑戦する会社と若者を応援します。

岩機ダイカスト工業株式会社坂元工場 八巻陸さん（21歳） 2級ダイカスト技能士（コールドチャンバダイカスト作業）平成30年度合格



1級の取得に挑戦
日々精進してまいります

受検するきっかけ

平成29年に仙台市立仙台工業高等学校を卒業後、岩機ダイカスト工業株式会社に入社し、坂元工場の坂元第2 鑄造課へ配属になり鑄造に携わる業務を行っています。

弊社では技能検定の取得に力を入れており、先輩方も毎年受検して資格取得をしています。私自身もダイカスト技能士の1人になりたいと思ったことと、これから鑄造課で業務をこなしていく上で、技術と知識の向上が必要だと思い受検しました。

合格に向けて取り組んだこと

弊社では受検前に独自の社内勉強会を行っており、その際に自分が分からないところ等を社内講師の方に教えてもらいながら苦手なところを無くしていき、過去問題を繰り返し解くことで出題傾向を把握しながら勉強しました。実技についても日々の業務以外で、鑄造作業の練習を行い試験に備えました。

技能検定受検を通して得たこと

技能検定を受けて得たことは、まず学科では勉強を重ねるにつれて自分自身の鑄造に関する知識量の少なさを痛感させられました。今後は知識を増やす事によって製品不具合の原因を見つけて改善できる鑄造者になれると思うので、これからも勉強を続けていきたいです。実技に関しては、日々の業務で毎日ダイカストマシンに触れていたため難なくこなせましたが、その一方でマシンの立ち上げ前の確認作業がトラブルの回避や、安全作業に繋がっていくのだと再認識できたので改めて確認作業の大切さを感じることができました。

今後の目標

私のこれからの目標は、コールドチャンバダイカスト作業1級の取得です。受検までまだ時間があるので、その貴重な時間



の中で今回の2級で得た知識を生かして業務に取り組みながら、1級の実技で行う型替え作業を早く覚え、受検までにスピードや作業効率を良くできるよう頑張っていきたいと思っています。それと同時に学科も難しくなるので今のうちから知識を身に付けて合格し、完璧な鑄造者になれるよう、日々精進していきたいです。



岩機ダイカスト工業株式会社本社工場

営業品目 アルミ・亜鉛、金属粉末射出成形製品
事業内容 アルミダイカスト製品、立型マシンによるスクイズダイカスト製品
亜鉛ダイカスト製品、特殊金型構造による超高速精密亜鉛ダイカスト製品
鉄、ステンレスによる射出成形品…MIM（Metal Injection Molding）

事業者の声

技能検定への取り組みについて伺いました。



右) 代表取締役社長 鎌田充志さん
左) 総務課 平田勘司郎さん

技能検定への取り組み状況

ダイカスト技能士の検定に本格的に取り組み始めたのは、ここ20年位です。もともとは従業員が自発的に取り組み始めました。今では入社した従業員は、基本的に全員必ず受検しております。会社から「受けなさい」ということではなく、先輩たちと一緒に働いていく中で、ものづくりの会社に勤めたからこそ自分も取ってみたいという気持ちが芽生え、新入社員は技能士の資格取得に日々取り組んでいます。また、工業高校出身者は翌年受検できる一方、普通高校出身者は年数を重ねる必要がありますが、自分が受検可能になるまで、社内で実施している技能検定の勉強会に毎年参加して知識を身につけ、受検しております。

会社からのバックアップ

勉強会は、社内の特級技能士等が講師になり、終業後に年3～4回開催しています。この勉強会は大変熱量があるので、夜の9時ぐらいまで行うこともあります。実技に関しては、業務で携わっているものではありませんが、難しいところもあり、知識を必要としますので、その点については、現場の課長や係長などの上司が対応し、一緒に勉強できる体制をとっております。

射出成形については、震災後に工場を新築し、若手が増加している中で、技能士の資格を取得した従業員がここ1～2年増えています。今は業務との両立がなかなか難しい面もあるため、係長などが若手をサポートして教えているところです。もう少しで若手技能士が講師として、ダイカストと同じように、社内勉強会を開催できるようになります。

資格取得に向けた取り組みについては、会社としてもサポートしております。

先輩たちの姿を見て

20代から30代までの年齢幅が増えてきて、若手は自分より少し前に入社した先輩が資格を取得すると、「よし、次は自分の番だ」となり検定に取り組んでいます。周りの先輩方の姿が、「自分も頑張ろう」という意識に繋がっています。

技能検定受験にあたり

受験手数料については個人負担で、給料からの天引きです。今は、若者の技能検定受験料が減額されますので受験しやすいのではないのでしょうか。

合格者には、資格手当が付きます。ものづくりの勉強もでき、会社で働くうえで必要な資格が取れ、周りから認めてもらえるだけでなく、「自分はここまでできるんだ」という励みにもつながり、給料にも反映されます。このことは、スムーズに資格を取得していく仕組みの一部になっております。

資格取得者は、資格者一覧に名前が社内に掲示されます。これも励みになっているようです。



様々なところに参加し、そこで得たものについては、社内勉強会でフィードバックする。そういう取り組みを毎年続けております。

ダイカストという名前ですから、それに関しての資格取得はもちろん、射出成形についてもMIMが台頭してきております。従業員は資格取得に取り組み、自分たちはダイカスト、射出成形の有資格者・スペシャリストなのだという自覚を持って取り組んでいく必要があります。技能士を目指すことで自分のスキルをよりいっそう磨き上げるとともに、習得した技能を後輩たちに伝えていくことが大事になります。

今後の取り組み

技能士資格の取得については、社内だけではなく、協力工場、グループ企業等の従業員の方々も、「岩機ダイカストの従業員がこういう資格を取った」ということを機に資格取得を目指し、勉強や検定で使用する機械の見学に来社されることもあるなど、広がりを見せております。今後もこのような形で、周りの企業を含めて少しずつ、技能士資格の取得を広めていきたいと考えております。

資格取得の意義

ものづくりの会社なので、自分のために資格取得、講習会等スキルアップになる勉強、教育は絶対必要です。教育がないと伸びません。いろいろなものを試す、挑戦していくことも必要です。役職者から一般従業員まで、

会社紹介

称 号：岩機ダイカスト工業株式会社

代 表：鎌田 充志

設 立：昭和 43 年

所在地：

本社工場 巨理郡山元町鷺足字山崎 51-2

電 話：0223-37-3322

U R L：http://www.iwakidc.co.jp/

県からのお知らせ

平成30年度技能検定 各等級別合格者数トップ職種

等級	職種	作業	合格者	申請者	合格率
特	機械加工		6人	11人	54.5%
1	とび	とび	57人	103人	55.3%
2	建設機械整備	建設機械整備	41人	69人	59.4%
3	機械検査	機械検査	152人	213人	71.4%
単一	バルコニー施工	金属製バルコニー工事作業	4人	6人	66.7%
随3	ハム・ソーセージ・ベーコン製造	ハム・ソーセージ・ベーコン製造	16人	22人	72.7%
基	とび	とび	75人	95人	78.9%

あなたも挑戦してみませんか？



宮城県立仙台高等技術専門校 渡邊剛志さん（20歳）



2級機械検査技能士（機械検査作業）平成30年度合格

受検するきっかけ

私がこの検定を受検したきっかけは、寸法測定の実験を向上させることで、2級機械加工職種取得に向け、さらなる力を身に付けたいと思ったからです。実習の中で、先生の「機械加工は測定に始まり、測定に終わる」「品質は工程で作る」という言葉から、寸法測定は、これから技能者として活躍していくための必要不可欠なスキルであると思い、受検しました。



春からの就業先でも真摯に打ち込んでいきたいです

今後の目標

今後の目標は、機械加工のさらなる技能向上です。今年度は、2級普通旋盤作業及び数値制御旋盤作業を受検し、合格を果たすことができました。今後は、切削加工だけでなく、平面研削盤等の研削加工の技能を身に付けるため、修了までの限られた時間を有意義に過ごしていきたいです。



学校の声：指導員 菊地聖彦さん

本校は、県が仙台市に設置している職業能力開発施設で、職業訓練を実施し、就職を支援しています。高等学校等を卒業した方や離職した方を対象とし、1～2年間のカリキュラムを組み、就職に役立つ知識や技能を身に付けていく過程の中で技能検定をはじめとした様々な資格取得に、日々取り組んでいます。

機械エンジニア科は、これまで、宮城県のものづくり産業を支える人材を養成すべく、平成20年度に1年課程から2年課程へ移行し、ものづくりマイスターの方々に支えられ、内容の充実を図ってきました。今春、第11期生が2年間の修業期間を終えようとしています。心・技・体の鍛錬を積んだ修了生が、様々な分野で、職業人として自立していくことを切に願ってやみません。

合格に向けて取り組んだこと

2級合格へ向け、時間を意識した練習に力を入れました。最初の練習では、試験時間内に測定を終えることができませんでした。そのため、三針法を用いたねじの有効径の測定では、三針をどのように入れると測定が行い易いか試し、またぎ歯厚の測定では、効率的な計算方法がないか試行錯誤を重ねました。計画立案等作業は、先生の解説を受け、受検する仲間と一緒に切磋琢磨しながら、過去問題に取り組みました。

技能検定受検を通して得たこと

この検定の受検を通して得たことは、物事に対する取り組む姿勢と仲間と協力しあうことの大切さです。私にとって、2級合格は高い壁でしたが、今回、目標を達成できたのは、万全の備えと先生や仲間との協力があったからです。これから就職して仕事をしていく上で、仕事に妥協があってはならないですし、一人だけでやっていけるものでもありませんので、仲間とのコミュニケーションも重要であると思います。今回の経験を忘れずに、春からの就業先でも真摯に打ち込んでいきたいです。

学校紹介

学校名：宮城県立仙台高等技術専門校
校長：渡邊龍明
創立：昭和39年
学科：機械エンジニア科・電子制御システム科
自動車整備科・電気科・設備工事科
建築製図科・塗装施工科・広告看板科
所在地：宮城県仙台市宮城野区田子1丁目4番1号
電話：022-258-1151
HP：<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sd-kougi/>

発行 宮城県経済商工観光部産業人材対策課
電話 022-211-2763
メール sanzinj2@pref.miyagi.lg.jp
Web <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sanzin/>
☆技能検定やものづくりマイスターにつ☆
☆いて、お気軽にお問い合わせください。☆